

大会派遣・研修報告書	
1. 大会・研修会名	全九州高等学校バスケットボール選手権大会
2. 研修期間	平成 31 年 3 月 23 日(土)～24 日(日)
3. 派遣者	福岡敏徳(西海) 大久保好純(佐世保) 藤田泰徳(大村) 山口勝真(佐世保) 池田美紗子(長崎) 片岡瑞季(島原)
4. 研修概要 (担当ゲーム)	<p>【福岡敏徳】 (A) 男子 延岡学園(宮崎 1)vs 熊本工業(熊本 2) CC (A) 女子 精華女子(福岡 1)vs 小林(宮崎 2) CC</p> <p>【大久保好純】 (A) 女子 精華女子(福岡 1)vs 糸満(沖縄 2) CC (A) 男子 延岡学園(宮崎 1)vs 興南(沖縄 2) CC (B) 男子 瓊浦(長崎 3)vs 祐誠(福岡 3) CC</p> <p>【藤田泰徳】 (A) 男子 福岡第一(福岡 1)vs 別府溝部(大分 2) U1</p> <p>【山口勝真】 (A) 男子 九州学院(熊本 1)vs 小林(宮崎 2) U1 (A) 男子 豊見城(沖縄 1)vs 大分舞鶴(大分 1) CC (A) 男子 福岡第一(福岡 1)vs 豊見城(沖縄 1) CC</p> <p>【池田美紗子】 (B)女子 那覇(沖縄 4)vs 大分商業(大分 3) U (B)女子 武雄(佐賀 3)vs 東海大福岡(福岡 3) U</p> <p>【片岡瑞季】 (A) 女子 佐賀北(佐賀 2)vs 延岡学園(宮崎 1) U2 (B) 女子 東海大福岡(福岡 3)vs 中村学園(福岡 4 位) U2</p>
5. 所感	<p>【大久保好純】 ・ほとんどの方と PGC の内容がかぶってきたので、内容を厳選して、提示してはどうかと思う。 ・鹿児島県の B 級の躍進がみられた。講習会でレベルアップしている感があった。 ・メカニクスも大事だし、判定力をあげる勉強も同時にあると良い。 ・県内でレベルアップして、県外でアウトプットです。</p> <p>【藤田泰徳】 全体としてゲームにマッチした判定ができた。映像や PPT を用いた PGC で、判定とメカニクスについて共有が図れたことが良かったと感じる。クロスコールが 2 回、クレー 3 人でのファウルコールが 2 回あった。プライマリーをもっと強く意識することが必要であった。ベンチからのアピールに対して CC が対応したが、全員が対応できるようにしておく必要がある。今回はクラブが 1 回、タイムアウト中の問いかけが 1 回あった。</p> <p>【山口勝真】 PGC では CC としてどこにポイントをおいてクレーに伝えるかクリップや図を作って臨んだ。(ローテーション※リード スイッチサイドのタイミング、3vs2、OOB、タイマー、ガイドライン等)3PO ではリードのローテーションがスムーズに行くことでそれぞれのプライマリーでプレイを長く見ることができ、良い判定に繋がる。ゲームレベルによってインパクト、マージナルの見極めが必要。＝テンポセットが重要となってくる。 クレーとして T0 の存在は重要。そこをいかにコントロールできるか、4 月から新ルールとなりトラブルがなるべく起きないように理解を深めなければいけない。</p>

【池田美紗子】

プライマリーの意識をもっと高めることや、選手、コーチだけでなくクルーとのコミュニケーションも非常に大事だと感じた。無理して判定すれば間違いがでてくるので、クルーと密に情報を共有して信頼関係を築くことが大事。特に今回は2本とも初対面の方と一緒に吹く試合だったので、県内でよく知ってる人と吹く時のようにお互いわかっているだろうではなく、基本的な事も確認を取る必要があると感じた。

走り方、シグナルなどのプレゼンをもっと強く見せれるように工夫したい。

【片岡瑞季】

ゲーム中3人で必要に応じて何度もコミュニケーションを取った。新たな情報を共有、確認をしてゲームを運営することにより、とてもスムーズに進めることができたのではないと思う。課題としては笛のタイミングと、コンタクトがあったその後の経過まで少し見届けて判定をすることを意識していかなければならない。また、声を使うシチュエーションを増やしていく。来年度に向け、質の高いレフリングを目指してトレーニングに励んでいきたいと思います。

派遣していただきましてありがとうございました。